

平成 28 年度
黒石市橋梁点検結果

§ 1. 橋梁長寿命化計画の基本方針

1-1. 橋梁長寿命化修繕計画の背景

我が国は現在、高度経済成長期に大量に建造された橋梁が老朽化し始め、今後 20 年間に大規模な補修や更新を行わなければならない。しかしながら、これまで通りのスクラップ・アンド・ビルドとすることはコストや環境面、社会資本整備の観点から非常に厳しい状況となっている。

そのような状況を踏まえ青森県では、長期的な視点から橋梁を効率的・効果的に管理し、維持更新コストの最小化・平準化を図って行く取り組みとして、平成 16 年度より橋梁アセットマネジメントシステムを構築し、平成 18 年 3 月には、橋長 15m 以上の橋梁を対象とした 5 箇年のアクションプラン(平成 18 年度～平成 22 年度)を策定した。

その後、橋長 15m 未満の橋梁に関しても点検が完了したことを受け、県が管理する全ての橋梁を対象とした「橋梁長寿命化修繕計画(10 箇年計画:平成 20 年度～平成 29 年度)」策定し、現在、同計画に基づき事業を実施している。

黒石市が管理する橋梁においても、長期的な視点から合理的な維持管理・更新コストの最小化・平準化を図って行く取り組みとして橋長 15m 以上の橋梁を対象とした「橋梁長寿命化修繕計画(10 箇年計画)」を平成 25 年に策定した。

平成 26 年度より道路管理者が管理する橋梁等の近接目視による定期点検(5 年に 1 回)が義務づけられた。また、健全度の判定、点検・診断結果を公表することになった。

平成 28 年度は、25 橋の橋梁定期点検を実施した。

1-2. 橋梁アセットマネジメントの基本コンセプト

黒石市では、青森県の基本コンセプトに基づき、橋梁アセットマネジメント※1をすすめることとする。

☆ 県民の安全安心な生活を確保するため、健全な道路ネットワークを維持します

これまで県民の生活を支え続けてきた多くの道路や橋梁などの老朽化が進行しており、近い将来に更新などに要する費用が膨大になるという問題が明らかとなりました。

この問題を解決しなければ、橋梁などの劣化・損傷が進み、道路ネットワークが機能しなくなり、県民の生活に支障をきたすことが想定されます。

本県としては、来るべき大量更新時代に向けて、今後とも県民の安全・安心な生活を確保するため、健全な道路ネットワークを維持することに全力で取り組んでいきます。

☆ 全国に先駆けてアセットマネジメントを導入しました

そこで、本県では若手職員のアイデアを積極的に取り入れ、大量更新時代に対応すべく、社会資本の新たな維持管理の手法として、「アセットマネジメント」を全国に先駆けて導入しました。

☆ これまでの維持管理の常識から転換します

これまでの維持管理は、「傷んでから直すまたは作り替える」という対症療法的なものでしたが、これからは、「傷む前に直して、できる限り長く使う」という予防保全的なものとし、将来にわたる維持更新コスト（ライフサイクルコスト:LCC）を最小化する方向に転換します。

☆ 社会資本の維持更新コストの大幅削減を実現します

「いつ、どの橋梁に、どのような対策が必要か」をアセットマネジメントによりの確に判断のうえ、橋梁の長寿命化を図り、将来にわたる維持更新コストの大幅な削減を実現します。

出典：「青森県橋梁長寿命化修繕計画」

※1アセットマネジメント:道路を資産としてとらえ、構造物全体の状態を定量的に把握・評価し、中長期的な予測を行うとともに、予算的制約の下で、いつどのような対策をどこに行うのが最適であるかを決定できる総合的なマネジメント [「道路構造物の今後の管理・更新等のあり方提言(平成15年4月)」国土交通省道路局HPより]

1-3. 黒石市の橋梁を取巻く現状

(1) 橋梁の現況(橋梁数の内訳)

現在、黒石市で管理する橋梁は、平成 28 年 3 月現在で 100 橋であり、その内訳は以下のとおりである。

橋長 15m 以上・・・27 橋(橋梁長寿命化修繕計画策定済み)

(内 2 橋の点検を実施)

橋長 15m 未満・・・73 橋(内 23 橋の点検を実施)

1-4. 橋梁定期点検

(1) 橋梁定期点検による判定区分

定期点検では「道路橋定期点検要領(平成 26 年 6 月)」に基づき道路橋毎の診断を行った。判定区分は以下のとおりである。

表-7. 2 判定区分

区分		定義
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

出典：「道路橋定期点検要領(平成 26 年 6 月)」

(2) 橋梁定期点検結果

平成 28 年度に定期点検を実施した対象橋梁、またその診断結果は次に示すとおりである。

橋梁名(フリガナ)		路線名	架設年次 (西暦)	橋長 (m)	幅員 (m)	点検記録	
						点検年次	判定区分
高賀野1号橋	コガノイチゴウキョウ	浅瀬石・袋線	1979年	4.9	9.1	2016	I
高賀野2号橋	コガノニコウキョウ	浅瀬石・袋線	1979年	4.9	9.1	2016	I
高賀野3号橋	コガノサンゴウキョウ	浅瀬石・袋線	1979年	4.8	9.5	2016	I
小根沢2号橋	オネザワニコウキョウ	浅瀬石・袋線	1979年	9.1	5.0	2016	I
あけぼの町1号橋	アケボノチョウイチゴウキョウ	出石田・小屋敷線	1988年	3.2	4.9	2016	I
西ヶ丘橋	ニシガオカバシ	若葉町・西ヶ丘線	1988年	4.4	7.1~8.33	2016	I
坂本橋	サカモトバシ	袋井・豊岡線	1988年	9.4	10.5	2016	I
長崎橋	ナガサキバシ	袋井・豊岡線	1988年	5.8	12.3	2016	I
前山橋	マエヤマバシ	尾坂町・山派立線	1985年	11.5	8.2	2016	I
沖揚大橋	オキアゲオオバシ	沖揚平1号線	1988年	10.5	5.7	2016	II
川合橋	カワイバシ	追子野木・浅瀬石線	1988年	2.3	5.7	2016	I
小屋敷1号橋	コヤシキイチゴウキョウ	小屋敷3号線	1988年	4.0	6.0	2016	II
東町橋	アズマチヨウバシ	東町・春日町線	1988年	3.1	4.6	2016	I
柵の木橋	サクノキバシ	柵の木・角田線	1988年	5.0	6.9	2016	I
宮元橋	ミヤモトバシ	高館・三島線	1988年	13.5	5.6	2016	I
西田橋	ニシダバシ	二双子・赤坂線	1975年	13.6	6.6	2016	II
西田2号橋	ニシダニコウキョウ	赤坂・二双子神社線	1988年	13.5	5.6	2016	I
上十川2号橋	カミトガワニコウキョウ	上十川2号線	1988年	13.6	5.8	2016	I
上十川1号橋	カミトガワイチゴウキョウ	上十川・派立子線	1988年	13.6	6.8	2016	I
留岡2号橋	トメオカニコウキョウ	長坂1号線	1988年	10.4	7.0	2016	I
長坂3号橋	ナガサカサンゴウキョウ	長坂7号線	1988年	3.5	4.7	2016	I
枝川橋	エダガワバシ	追子野木本線	1988年	5.5	7.0	2016	I
知恩橋	チオンバシ	長坂・浄仙寺線	1995年	14.9	6.2	2016	I
福民橋	フクタミバシ	花巻福民線	1977年	42.0	7.5	2016	II
竹鼻橋	タケハナバシ	竹鼻9号線	1977年	42.0	5.0	2016	II